

居住地校交流だより

障害のある子どもと障害のない子どもが共に活動する機会を通して、互いに理解を深め合い、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるように、国、県と共に交流及び共同学習を推進しています。

本校でも、児童生徒が自分の住んでいる地区の学校を訪問し、居住地校交流を行っています。コロナの影響で予定した交流が出来なかったり、回数が減ったりした児童生徒もありましたが、年間を通して小学部20名、中学部12名の児童生徒が交流を行いました。来年度も 有意義な交流になりますよう保護者、小・中学校の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



城南小学校 2年生 <生活>

動くおもちゃを作りました。たくさん言葉を交わし、交流を楽しむことができました。

桂城小学校 特支 <生単>

「アンパンマンを探そう」と題して、学校内を楽しい雰囲気で見学してもらいました。

下川沿中学校 2年生 <体育>

バドミントンに挑戦しました。1年ぶりでもすぐに打ち解けて、笑顔が広がりました。

参加する前は、友達が自分を覚えてくれているか心配そうにしていますが、いざ会ってみるとすぐに声を掛けてくれ、仲間に入れてくれるので安心した様子でした。本人の世界が広がったようでした。



保護者のみなさんより

なかなか会えない友達と久々の対面で緊張していましたが、笑い声やいつもの声で会話をする等、楽しそうでした。こんなに一生懸命スポーツをする姿を見られて嬉しかったです。

ゲストティーチャーの効果

たくさんの小・中学校と居住地校交流を行いました。事前学習として、本校職員がゲストティーチャーとして訪問し、障害理解授業を行っています。より、充実した交流になるようにアプローチの方法や内容を工夫しています。受け入れて下さった相手校の先生方からは、「生徒も自分自身も交流を通して考えを深め成長できた。」「事前学習のおかげで、児童生徒も交流に自信をもって臨めた。」等、事前学習が貴重な機会だったという声が寄せられました。

これからも、お互いに理解を深め合い、地域の仲間として、共に生きる喜びを育てていきます。



釈迦内小学校 2年生の手作り絵本から事前学習で本校児童の好きなものを知り、それが登場する絵本を作成しました。グループで場面を担当し、本校児童は貼り絵をしました。後日、完成された貼り絵絵本が届きました。